

派遣報告書（報告者：樋口俊司）

大会名	令和8年度全九州高等学校体育大会 第79回全九州高等学校バスケットボール競技大会
開催地	佐賀県佐賀市、佐賀県吉野ケ里町
日時	令和8年6月20日（土）～ 21日（日）
担当ゲーム1	東海大福岡（福岡県） vs 具志川（沖縄県）
クルー	CC:樋口俊司（大分県） U1: 浦上郁夫（佐賀県） U2: 横尾卓己（佐賀県）
担当ゲーム2	慶成（熊本県） vs 小林（宮崎県）
クルー	CC: 樋口俊司（大分県） U1: 福岡敏徳（長崎県） U2: 江島智博（佐賀県）
担当ゲーム3	福岡第一（福岡県） vs 柳ヶ浦（大分県）
クルー	CC: 荒木晋之（福岡県） U1: 樋口俊司（大分県） U2: 藤田則正（長崎県）
(担当ゲーム) Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ・両チームのスカウティング情報共有（とくに注目すべきマッチアップ、ラフプレーヤー） ・役割の確認(EOQ,EOG) ・Rotation ・Edge の primary 	
(担当ゲーム) Post-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ・第1試合については、初めて組むクルーであったので、1Qからのメカを信じ、クルーを信じることの上で、ケイデンスで笛を成立させるメンタルの整え方はやはり難しいと自己分析。 ・第2試合、ゲームをリードするというのはどれだけこのゲームに準備してきたか、ということ再認識。そのうえで、コーチのコントロールも含めたものや TF のイメージをゲームコントロールの中に準備をいれ、安心なゲームを提供し、クリエイティブなバスケットボールゲームを作り上げることが大切だと認識 ・第3試合については、九州だけでなく日本が注目するカードで、想定される結果からは非常にメンタルが難しいゲームで、マネーコールや試合の位置づけも非常にタフだったと振り返り。いろんな準備を想定する中でも普段の積み重ねの中で「ゲームをリードする」力は不足していた。判定力がマッチしていないシーンもあり、日本一を目指すチームの担当には引き続き上を求める必要性があった。 	
今大会に参加しての感想など	
<p>U18九州大会の開催前夜にはJBAとのブロック連携会議に参加しました。JBAが目指す将来像に地方である大分もついていかねばならないと認識を深める中で、今大会のU18大会も年々レベルが上がっているのを実感しました。今回は世界大会との日程がずれており、カテゴリー代表の選手も多く参加していました。</p> <p>私自身の課題である、「ゲームフロー」や選手、チームの意図を感じながら判定をゲームにフィットさせる力を養いたいと思ってチャレンジした大会でした。「ルールでゲームをリードしていく」「どのようなゲームを作っていくために準備をしていくのか」ということを意識して臨んだ大会でもあり、2月の大会よりも準備も変えてきた中で、審判員の存在や周囲が期待するものを強く感じました。エキサイティングなゲームを周囲に提供する前に、見ている人が不安にかられるような審判員は求められないと思いました。そのためにはいろんなツール（コミュニケーション、言葉の使い方）を駆使し、心を砕きながらチームで運営していく姿が必要だと思いましたし、個人としても選手だけに留まらないスカウティングを活かしながら、準備をしゲームフローを想定して笛で表現していく。そのような準備をしてまいりたいと思いました。</p> <p>この度の派遣に当たり、家族、職場、大分県協会や審判委員会の皆様、更にはホスト県である沖縄県の皆様に感謝もうしあげまして、報告とさせていただきます。ありがとうございました。</p>	

